

2010 年度質量分析学会

## 功 勞 賞

阿久津弘明 氏 [旭川医科大学]



阿久津弘明氏は 1977 年度国家公務員採用初級資格を取得後、1978 年 4 月 1 日、旭川医科大学に文部技官として採用され、中央研究部（現実験実習機器センター）に配属された。機器分析全般を担当したが、1979 年 4 月に同学最初の質量分析計（JEOL D-300）が導入され維持管理、測定を任された。翌年の 1980 年 1 月に日本質量分析学会へ入会している。

この装置で脂肪酸、トリグリセリド、プロスタグランジンや血中薬物の定量など精力的に行った。

1990 年 1 月に JEOL SX-102（D-300 の代替機）を導入し小児科学講座と有機酸の先天性代謝異常分析における独自のライブラリを作成し、道内はもとより東南アジアからの試料も精力的に測定した。2006 年 4 月ブルカードルトニクス Reflex III（移設）を導入し、30 年もの長い間、同学実験実習機器センター（旧中央研究部）においてこれらの分析計を利用し、有機化学的な試料と比較して微量で形状的にも複雑な医学研究試料のマスペクトル測定業務や装置の維持管理業務を一手に担い、同学の教育研究活動を支援してきた。

2001 年、北海道地区の質量分析ユーザーの技術交流、情報交換の場として「北海道質量分析研究会」を設立し、現在もなお精力的に、この研究会を維持し、運営に尽力している。2009 年 9 月 11 日に開催された第 8 回北海道質量分析研究会において、本学会との共催（北海道地区研究会・講演会）、さらに 2010 年度からは日本質量分析学会北海道談話会というかたちまで発展させた。

加えて阿久津氏は、2009～2010 年期の本会委員にも選出されたほか、第 31 回 BMS コンファレンスのサポートスタッフとして尽力するなど、本学会の運営にも大きく貢献している。

以上のように阿久津氏は長年にわたる北海道地区の質量分析の進歩のために尽力し、この継続した活動を通してわが国の質量分析の発展に大きく寄与してきた。よって 2010 年度日本質量分析学会功労賞にふさわしいと認められた。